



雨降りの日が多くなり、梅雨らしくなってきました。雨の日は、保育所や幼稚園への道のりも、大人にとってはいつもより“大変なこと”になってきますよね。荷物に加えて、子どもたちの興味があちこちにあり、園までが遠く感じ、やっと着いたらびしょぬれ！なんてこともあるのではないでしょうか。時間のある時には、水たまりやかたつむりなど、雨の日ならではの楽しさを一緒に感じることも、子どもの感じる“おもしろさ”に気づくきっかけになるかもしれませんね。



接続期の子どもたちに大切にしたいこと

～「愛されている」という安心感、「認められている」という自信を～

学童期・思春期を見通して、保育と子育ての中で乳幼児期から大切にしたいことは「基本的安全感」の確立という問題です。最近、自信のない子どもが多いといわれます。私も、発達相談という仕事を通して多くの子供と出会う中で、そのことを強く感じました。「自分は自分（オレはオレ、私は私）。かけがえの無い存在」と、一人ひとりの子供が自己の存在に自信と安心感を持ってほしいと私は思っています。けれど、その気持ちが弱く、「こんな自分でいいのかな。自分は存在に値するのかな」と悩んでいる子どもたちの、いかに多いことか。激しい競争社会の中で、子どもたちは幼い頃から、あらゆる評価にさらされて生きているように思います。

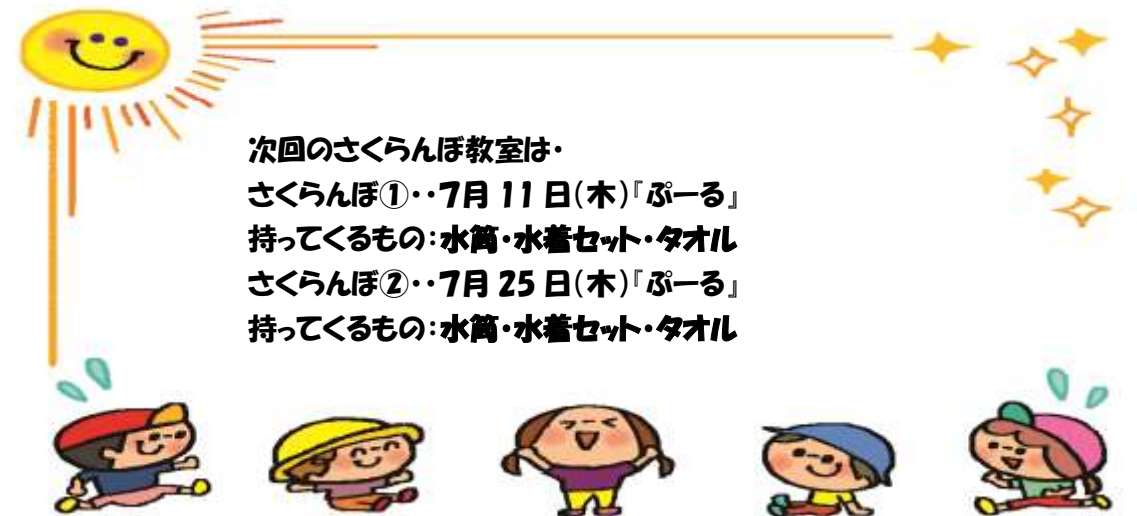
小さいときから、ほめられる場合に「1番ね」「上手ね」と常に結果の評価の中で認められてきた子どもは、自我が育ってきて自己に気付きはじめる4歳ごろから、自分が「できるかできないか」「上手か下手か」ということが大変気になってくるのです。「できる自分でありたい」「上手な自分でありたい」という思いが広がって、「できないかもしれない」「下手かもしれない」と考えた時に、自己表現ができなくなってしまう。そんな時、集団活動からはみ出してしまったり、わざとふざけてごまかそうとしり、表現活動をこぼんだりという反応を示すことがあります。4歳前後には、その時期の発達特徴のあらわれとして、一時的にこのような状態を示すこともあるのですが、中には「できるか、できないか」「上手か、下手か」というような「二元論的自己評価」の揺れを、学童期までずっと引きずっている子どもがいます。自信のない課題になかなか挑戦することができません。そして失敗することを極端に恐れます。

それぞれの子どもは、能力の如何にかかわらず、かけがえのない存在です。そのことを大人はもっと子どもたちに伝えていかななくてはならないのではないのでしょうか。「あなたのことが大好きよ」という気持ちを、大人の言葉と態度と表情で表現していきたいものです。「あなたはここが足りない」「もっとがんばれ」「もっと〇〇したら良い子なのに」という、子どもの気持ちに沿わない叱咤激励は、逆に子供の発達の可能性を抑えてしまうこともあります。

子どもが豊かに成長していくためには、「基本的安全感」の確立が不可欠です。そして、そのためには、子ども自身が達成感を感じられるような発達段階の応じた活動が組織されていること、子どもの「ヤッター」という達成感に共感する大人が存在すること、子ども自身が帰属意識を感じることでできる集団の中に「居場所」が確立していることなどが大切なのではないかと私は考えています。

一人ひとりの子どもが「自分は親から愛されている。先生からも大切にされている。友だちからも認められている」と感じられるように、大人は子どもを守っていく責任があるのではないのでしょうか。

『幼児期から学童期へ ～接続期の生きる力と知力を育てる～』 丸山美和子著



次回のさくらんぼ教室は・
さくらんぼ①・7月11日(木)「ぶーる」
持ってくるもの:水筒・水着セット・タオル
さくらんぼ②・7月25日(木)「ぶーる」
持ってくるもの:水筒・水着セット・タオル

『参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
 - ・参加費は無料です。(次回からおたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため)制作や、クッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡いたします
 - ・活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
 - ・水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えてください)
 - ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください
 - ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください
- ていただくとともに、学園への連絡をお願いします



